臺灣新民報 夕刊 八月六日
夕刊定価一部二錢
發行所 臺北市榮町二丁目廿二番地 臺灣日日新報社 基隆市明治（電話七八番）基隆支局 臺中市寶町（電話一〇七）臺中支局 臺南市錦町（電話六〇〇）臺南支局 花蓮港街入船町 花蓮港支局 大阪市西區阿波座上通一丁目（ユタカビルディング内）大阪支局 東京市京橋區銀座一丁目 東京支局
印刷兼發行人 佐々木榮
（第二版） （御許可一年五月九日第三種郵便物認可） 昭和十三年八月七日（日曜日） 臺灣日日新報 第一万三千七百八 （一）

實行豫算の節約額
總計二億五千餘萬圓
九日の閣議で決定

【東京六日發同盟】大藏省では昭和十三年度豫算の實行に對して十二年度豫算を編成の際の所謂節約額を各省との間に折衝を續けつゝあつたが愈々計數整理の上來る九日の閣議に提出決定することゝなつた、而して右節約額は一般會計に於て二億三千餘萬円特別會計に於て二億五千萬円、總計二億五千萬円に達する見込である、尙一般會計に出して特別會計の節約が過般の災害のため第二次補正豫算に編入されたに反し特別會計に於ては特に緊急其他の豫算計上に關係して節約の餘儀なきに至つたものが少くない爲め特別會計の節約は五千萬円に止まつた

料亭祭の賜下御
達傳に族遺ふけ
らか官令司軍莊古

戰歿將兵の花北葬に對する御下賜の祭祀料傳達式は六日午前十時から軍司令部に於て行はれた、田中參謀長以下各部長、副官、在北部隊長、坂谷支那駐屯軍參謀長、鈴木州内務部長等侍立の上古莊軍司令官より

畏くも 天皇 皇后兩陛下より祭祀料御下賜の御言葉を拜した、祭壇には戰歿將兵の御靈前に供へた御下賜の御酒肴が供へられ、祭壇におかれても參列者一同感激の面持であつた

陸の荒鷲數十機
大擧西安を空襲
一機撃墜 數機を爆撃破壊

【北京六日發同盟】軍司令部發表、我が陸の荒鷲數十機は六日午後一時十五分頃より八機の内數機が各數回に亘り西安飛行場及び飛行機格納庫を爆撃した、その詳細なる戰果は全部を調べ終り次第發表する筈である

重光、リ兩氏の
四日の會談内容
張鼓峰事件に關して

【上海五日發同盟】中支那の復興進捗に伴う經濟發展と共に年々增加の一途を辿つて來た上海稅關の稅收入は昨年度は九千元に上り六月中に比し五十七萬千元に上り六月中に比し五十七萬千元の增加を示した、更に續く兩月加算の稅收入總額は七百萬三千元に上り九月一日までに昨年十一月國民政府が稅收增加のみを目的として吊り上げた輸入關稅の改訂以來の收入である

上海關稅收入
著しい增加
前月より五十七萬元

【北京五日發同盟】華北經濟の全面的是正に關する日滿支三國間の會議は五日午後三時より大使館に於て開かれ、日本側からは大使館參事官 タイヤ 其他 三名、滿洲國側からは 三名、支那側からは 三名出席した

爲替基金制度を
中國聯銀に創設
北支貿易の振興期待さる

【北京五日發同盟】日本銀行がその正貨準備の四二億円を分割して外國爲替基金制度を創設したことは爲替資金運用に新機を拓いたものとして國際金融市場から注目されてゐるが、北支に於ても中國聯合準備銀行の保有する在外正貨をもつてこの新制度を發かんとする機運が擡頭するに至つた、即ち現在北支に於て正金銀行に依つて行はれてゐる第三國向け輸出入リンク制は九月末期を以つて行はれるものであるから、之に代る新制度の樹立を必要とするに至つたので、これに關する北支貿易の振興は期待されてゐる

海運業組合法案
遞信省で立案研究中

【東京六日發同盟】遞信、內務兩省當局は海運業の全面的是正に關する日滿支三國間の會議の決定を俟つて海運業組合法案の研究を進めてゐるが、同法案の内容は左の通りである

一、海運業組合は法律に依り設立せられる公法人とす

一、海運業組合は運賃の適正なる協定、配船の調整等に關する權能を有するものとす

一、海運業組合員の範圍は新事態に對處する必要に鑑み等に關聯の海運業者までを包含し、又關東州の海運業者も場合により包含せしむることが豫想せられる

愛國公債の
募集計畫
北支の金票を積極的に回收

【北京五日發同盟】北支に通用してゐる金票の回收に就ては從來より漸次回收の方針を採つてゐるが、今回新たに北支那側中央銀行の設立を見るに至つたので、これを機會に一擧に回收せんとの計畫が進められてゐる、右は金票のインフレ防止と同時に內地と步調を合せて北支に於ても財政經濟調整の目的を有し、この愛國公債は八月二十二日より九月二日まで發賣され支那側愛國一般銀行團の手を通じて應募することになつてゐる

その日その日

○…以上に小うるさいグリラ戰術とも長期戰とも。鬱つ此の方に評論にホバラねばならまい

○…何しろ日本側の公表戰果を見た上で、國際聯盟は對日作戰を立てるといふのだから、從來も大國間の權謀術數にはそスクワ政府との間にヒビが入つてゐるとすると、張鼓峰は絶叫した此方で、後には切しても此方が面白からう

○…カムラン灣は、青い南國に取つては古臭さう、ソノ上に佛領印度支那の重要性に鑑み本邦以外の海軍業者も編入により包含せしむることが豫想せられる

（編輯局五日午後二時）五十円、百円、五百円、千円の五種」及び同發行限度額「一億千餘萬圓」の二種で鮮銀の北支各支店で販賣することになつてゐる

漢口の運命迫る
九月一杯持つまい（英武官の觀測）

【上海五日發同盟】英大使カー氏の證言により所在各國側の對支態度は明かに一部變更すべきである、一、國力增强に對する自信の回復、二、支那側の自發的抗戰意志の喪失、三、英國側の支那に對する好感の增大、四、ソ聯邦の援助の減退、五、獨伊の支那に對する援助の增大、六、國際聯盟の對支援助の强化、七、英國の極東に於ける地位の强化、八、日本の支那に對する好感の增大、九、日本の支那に對する援助の減退、十、日本の國際聯盟に對する好感の增大、十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、六十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、六十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、六十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、六十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、六十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、六十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、六十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、六十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、六十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、六十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、七十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、七十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、七十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、七十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、七十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、七十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、七十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、七十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、七十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、七十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、八十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、八十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、八十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、八十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、八十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、八十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、八十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、八十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、八十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、八十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、九十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、九十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、九十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、九十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、九十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、九十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、九十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、九十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、九十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、九十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百二十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百二十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百二十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百二十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百二十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百二十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百二十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百二十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百二十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百二十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百三十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百三十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百三十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百三十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百三十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百三十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百三十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百三十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百三十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百三十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百四十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百四十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百四十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百四十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百四十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百四十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百四十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百四十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百四十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百四十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百五十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百五十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百五十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百五十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百五十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百五十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百五十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百五十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百五十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百五十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百六十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百六十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百六十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百六十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百六十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百六十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百六十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百六十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百六十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百六十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百七十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百七十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百七十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百七十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百七十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百七十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百七十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百七十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百七十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百七十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百八十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百八十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百八十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百八十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百八十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百八十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百八十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百八十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百八十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百八十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百九十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百九十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百九十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百九十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百九十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百九十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百九十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百九十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、百九十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、百九十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百二十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百二十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百二十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百二十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百二十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百二十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百二十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百二十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百二十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百二十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百三十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百三十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百三十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百三十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百三十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百三十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百三十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百三十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百三十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百三十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百四十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百四十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百四十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百四十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百四十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百四十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百四十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百四十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百四十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百四十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百五十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百五十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百五十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百五十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百五十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百五十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百五十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百五十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百五十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百五十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百六十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百六十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百六十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百六十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百六十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百六十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百六十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百六十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百六十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百六十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百七十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百七十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百七十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百七十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百七十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百七十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百七十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百七十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百七十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百七十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百八十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百八十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百八十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百八十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百八十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百八十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百八十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百八十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百八十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百八十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百九十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百九十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百九十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百九十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百九十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百九十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百九十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百九十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、二百九十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、二百九十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百二十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百二十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百二十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百二十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百二十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百二十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百二十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百二十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百二十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百二十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百三十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百三十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百三十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百三十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百三十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百三十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百三十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百三十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百三十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百三十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百四十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百四十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百四十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百四十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百四十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百四十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百四十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百四十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百四十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百四十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百五十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百五十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百五十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百五十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百五十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百五十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百五十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百五十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百五十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百五十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百六十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百六十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百六十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百六十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百六十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百六十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百六十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百六十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百六十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百六十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百七十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百七十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百七十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百七十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百七十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百七十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百七十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百七十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百七十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百七十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百八十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百八十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百八十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百八十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百八十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百八十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百八十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百八十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百八十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百八十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百九十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百九十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百九十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百九十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百九十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百九十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百九十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百九十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、三百九十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、三百九十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百二十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百二十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百二十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百二十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百二十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百二十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百二十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百二十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百二十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百二十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百三十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百三十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百三十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百三十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百三十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百三十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百三十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百三十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百三十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百三十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百四十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百四十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百四十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百四十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百四十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百四十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百四十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百四十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百四十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百四十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百五十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百五十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百五十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百五十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百五十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百五十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百五十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百五十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百五十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百五十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百六十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百六十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百六十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百六十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百六十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百六十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百六十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百六十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百六十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百六十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百七十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百七十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百七十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百七十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百七十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百七十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百七十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百七十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百七十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百七十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百八十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百八十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百八十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百八十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百八十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百八十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百八十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百八十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百八十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百八十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百九十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百九十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百九十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百九十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百九十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百九十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百九十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百九十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、四百九十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、四百九十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百二十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百二十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百二十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百二十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百二十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百二十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百二十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百二十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百二十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百二十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百三十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百三十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百三十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百三十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百三十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百三十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百三十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百三十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百三十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百三十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百四十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百四十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百四十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百四十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百四十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百四十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百四十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百四十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百四十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百四十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百五十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百五十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百五十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百五十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百五十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百五十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百五十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百五十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百五十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百五十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百六十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百六十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百六十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百六十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百六十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百六十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百六十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百六十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百六十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百六十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百七十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百七十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百七十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百七十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百七十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百七十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百七十六、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百七十七、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百七十八、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百七十九、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百八十、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百八十一、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百八十二、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百八十三、日本の國際聯盟に對する援助の減退、五百八十四、日本の國際聯盟に對する援助の增大、五百八十五、日本の國際聯盟に對する援助の減退、

上陸の戰闘は上乘 九江を一と睨み

殿家湖庄に敵前上陸

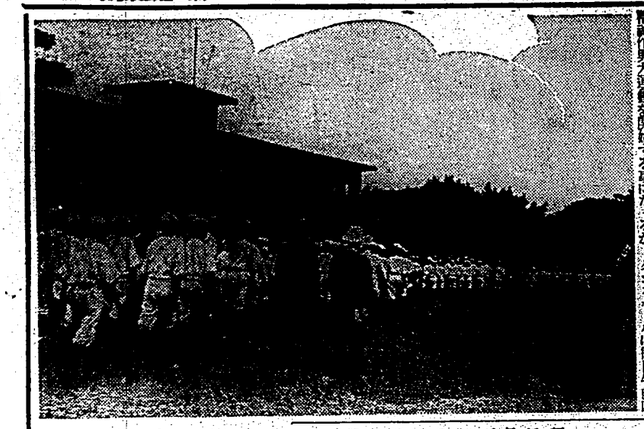
（殿家湖庄二十三日發松田特派員）吾が郷土部隊が其の赫々たる武勲と自滅の覺悟の綿密なる計畫の下に敢行した殿家湖庄の江岸最後の要衝として難攻の呼聲高かつた○○部隊の江岸上陸作戰は、八月十二、十九、四十四日等々約八個師の中央軍を以て死守せる殿家湖岸の要都九江を攻略すべき時が遂に來た、此の九江攻略に向かつては我が佐藤、高橋中島部隊の安藤部隊長と江岸の要地をことごとく陷れた郷土部隊とこれと常に相提携

果敢な掃海

と謂ひ乍ら勇名天下に轟く海軍陸戰隊の兄弟部隊たる○○部隊等々で我が佐藤、高橋、中島部隊の精鋭が其の要地に更に新しい輝やく一頁を附加へる時が來たのだ、記者も此の九江攻略に郷土部隊に從軍決死の敢闘と陸と佐藤部隊と共にした、七月廿二日夜の二日が暮れ蒼惶の彼方から夕闇が遠く寄る頃、場所、指揮（湖口の下流一野）より攻略部隊は大小無數の戰闘艦に分乘、數個梯隊に身を固め雄叫と闇黑の湖上を湖口を左に廻り山、大王廟の敵陣地を右に一路上陸敵足地殿家湖庄に進んだ、此の決死の敢前上陸に佐藤部隊の第一線を承はる林益武部隊長が勇敢なる部隊である、最初部隊長は海軍と協力して陸上に上陸すべく武裝部隊長に同乘を乞ひしに陸軍と海軍とは勝手が違ふからと斷られ、やむを得ず「今度だけは諦めて呉れ、君を負傷させてまいと思ふと絶に忍びなければならない」と切に懇願し部隊將士が上陸の前後を緊張してゐたかを察するに足る、然も如何なる敵戰に於ても

武滿部隊長

は戰況を中らないと一線に乘馬で叱咤する隊長である、記者は佐藤部隊長と共に廿三日午前五時半○○隊の敵前上陸につきものの小雨を衝き



（北京發下條本社特置員）北支の首都北京は事變以來隨所に暴戻が勝を斷つたので平和に慣れた氣風が自ら漲縮し邦人の人口增加につれて邦人數萬の設置は目覺ましいものがある、それは邦人

發展

上一般に於いてまだまだことは出來ないが戰線に近い、最後第一線の緊張こそ最も必要で浮かれ氣分の醒神を引締めようとここに國民精神作興運動が時局柄と勿論興と運動が時局柄と勿論興と國民と協議の結果北京の日本關係作興大運動を開始する事にな

武滿部隊長

り二十日夜その發會式を盛大に擧行した

日本內地に於ける緊張ぶりは寧ろ北京、天津あたりのそれより

もその度が強烈であるとの非難があり又それ金儲けのためには手段を選ばない一部の人々が居留民衆を

墮落

（誘惑するものとしてその方面の取締りを嚴にし風紀振粛を斷行する事に決定

先づ楊梅に於けられるのはダンスホール、カフエー、料理屋等であるが、ダンスホールは毎日午前

北京に神社造營

北支在留邦人の精神を統一 武德殿建造の議も昂る

北京と上海に分校建設

を機にし興北京の風紀振粛を

明大に農學部

支那學生の留學を大いに歡迎

【北京五日發本社特電】北京大學農學への復活で再び往年の學都に甦らうとしてゐる北京に更に日本から支那學生の留學歡迎の聲が捲んで來た、國立明治大學では北京及び北京の國民に新に大學を設置すると云ふ遠大な計畫を有し此ど同大學總長鈴木梅太郎氏が來京、北京當局同學會と協議中であつたが愈〻左の如き計畫の大綱を決定した

今秋から明大に商部を創設し國學部には林學博士本多靜六氏が顧問、農藝學上にある河北

營庭へ除草隊

臺北一中生の勤行團

ハノイ大學に日本の講座

"援蔣"を一擲・親日に

【東京六日發本社特電】所在右の如く各國の武器援助を斷ち長期抗戰を叫んでゐる重慶の蔣介石政權と云はれてゐる支那國民政府は

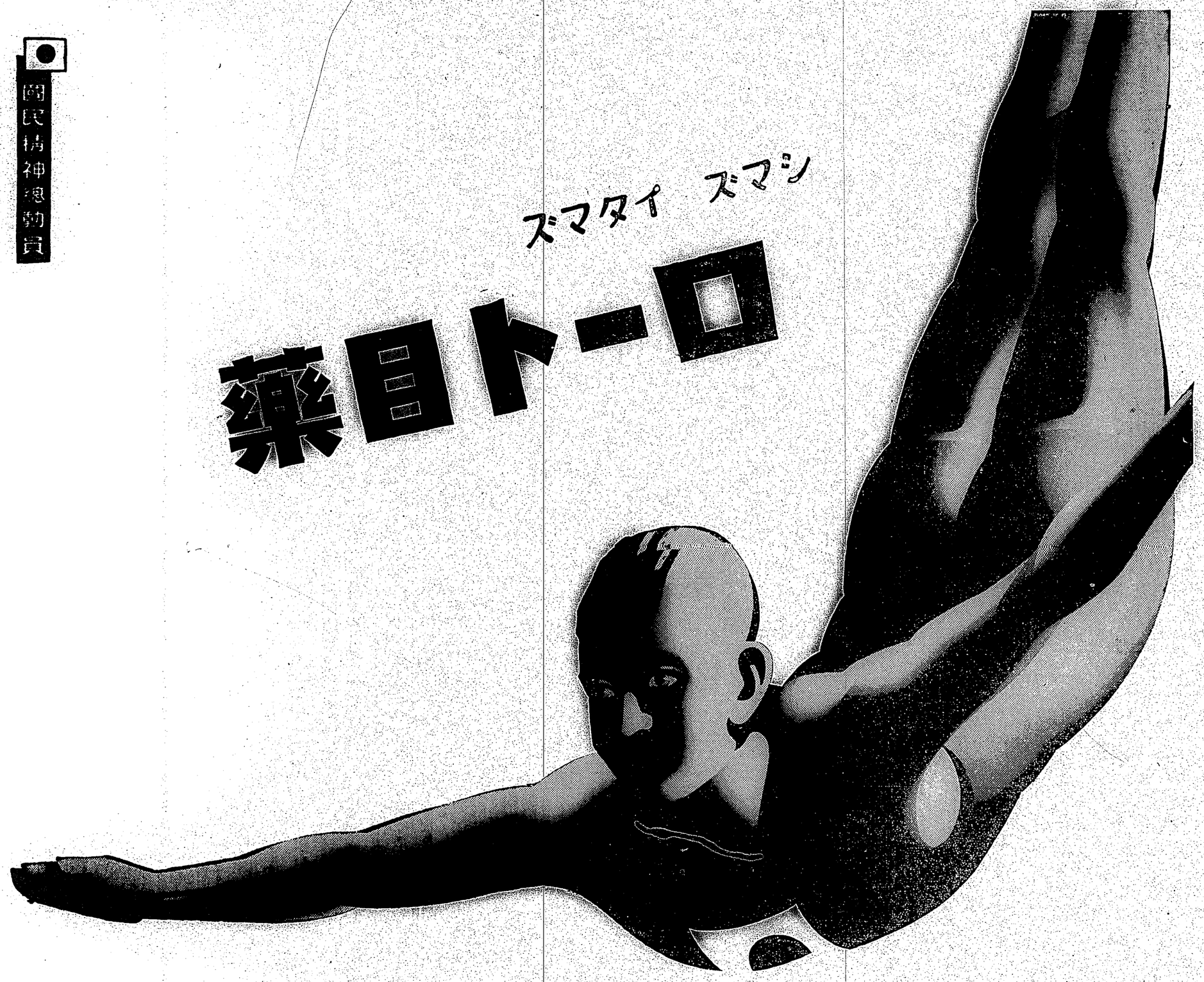
奇病の小兒麻痺 福岡に蔓延

既に二十餘の罹病者

【福岡六日發本社特電】アメリカの千万長者の息子が繼いだ銀の橋で脚麻を病み日本からシカゴに歸るのにその原因と方法を知らないといふので"鉄の脚"一時として話題となつたハイネマン兵隊といふ珍らしい小兒麻痺が福岡地方に大流行してゐると傳へられたが、福岡縣内にもそれとは知られずに相當蔓延してゐる模様で先月初めから九月小學校に於いて第二學期が始まるに當つて縣内の各學校では學校醫を動員して學童の健康診斷を行つたところ、福岡縣内の罹病者は二十餘名にも上つてゐることが判明したので、早速縣當局

ズマタイ ズマン

藥目トーロ



ロート一滴のダイビング！

苛照る日光に紫外線！
沸たつ水にバクテリヤ！
眼の災禍到る處に充つる今
見ごと眼禍を衝く
ロート一滴のダイビング！

夏は汗埃さては強烈な紫外線のために眼を傷めやすく加ふるに海水プールなどに氾濫する黴菌のため結膜炎・角膜炎・トラホーム等の眼疾に冒され勝ちです　ロート目藥はその優れた殺菌・消炎・收斂・鎮痛等の諸作用によつて斯る眼の外敵を制壓し能く諸種の眼疾を未然に防止すると同時に進んで視力を強化する高級眼科藥であります

適應症

血膜炎・角膜炎・疲勞眼・血膜充血・角膜翳・トラホーム・學校眼炎・眼瞼緣炎・麥粒腫等
偖に　のぼせ目・はやり目・たゞれ目・ち目・やに目・はれ目・かすみ目・雪目・くもり目・こり目・かわき目・めぼし等

ロート目藥の點眼容器

第一に携帶に便利です
第二に使用が簡單で、而もキャップがあるから衛生です
第三に藥液特許の自動式で一滴の滴數もあります

藥價	
小瓶	二十錢
大瓶	三十錢
寫用	五十錢
小寫用	二十錢

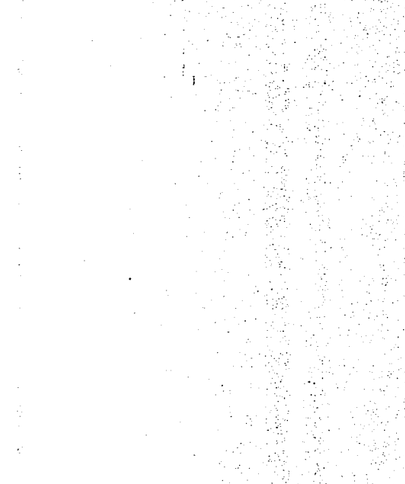
大阪 山田安民藥品

國民精神總動員

○神宮と皇居の遙拜を致しませう
○努めて慰問袋や慰問狀を送りませう
○國產品を愛用致しませう
○無駄を省き貯金を致しませう

慰問袋に目藥を！

皇軍勇士の眼を護りませう



我皇軍は北支に中支に激戰又激戰　勇士の眼は日夜の別なき過激な使用により多くは皮膜に炎症を起して赤く血走つてゐるでせう
その上漂々たる戰塵の爲めに眼球は傷き　或は非衛生と知りつゝも汚水で洗面の止むなき事などに因つて角膜炎　トラホーム等の眼病に罹り易く　一旦眼を惡くした時は中々養生の遑もありません
戰捷の陰の斯うした勞苦を思ふ時　卓効至便のロート目藥の一壜こそは眞に適切なる贈物です

江戸桃花陣 (107)

海音寺潮五郎作
富永謙太郎畫

人生からくり（二）

駿吉は浦賀まで行けと言ったが、浦賀は遠くて、ほんのかかりの田原町に入ると、出て下りた。

「ここでよい。帰れ」

行く先を知らせたくないのであろう、駕屋の立去るのを見送ってから、とぼりとぼりと歩き出した。

橋に入って二つ三つ辻を曲って、一軒の家の前に立止まった。御用聞があるであろうか、その家は、すこし前、駿石を秘密の駿館に招いた日、駿館が三五郎に会って、駿館に必要な金銀の調達を依頼した筆入家であった。

あの時には、駿次郎を待つまでもなくすぐ三五郎が出て来たが、今日は若いいなせな男が取次ぎに出て来た。

「どなたさまでございましょうか」

手数くさそうな応対ぶりをして、じろじろ駿屋を見てゐるのである。

「三五郎は居るかの」

「へえ？」

「三五郎が居るならば会いたい。逢わせやれや」

「旦那でございますか」

「旦那？」

「へえ、三日前から帰って来ねえんでございますが」

駿屋は途方に暮れた顔をした。だが、相手は何にも言はない。どういふ用件かときもしたいのである。

「いつ頃帰って来るか、わからぬのであらうか」

「へえ」

「ぜひ会って頼みたい用件があるのだが、何とかさがして見てくれまいか」

「さあ、それが……御用の筋でございますけど、一向に」

言訳はていねいだが、とりつく島もない返事である。駿屋は駿忘して、

「ではな、帰ったなら、忘れずに申してくれ。食べんで疲労に思って帰って行く。ぜひ会って、折入って頼みたいことがある旨、例の場所に来て貰ひたいと」

と駿屋にしては、丁寧くといほどの金を押してかへって行った。

ところが、である——

駿屋がものの四五町と行ったと思ふ頃、その若い男は急ぎ足に後を追いかけて来た。

「旦那さん」

「お入り」

声と呼ばれ、男は、用心深くあたりを見廻してから中に入った。手駿をもって十間に居たのは、小意気な年増女であった。しかし我々がかつて金影町のどんぶり屋で見た女ではなかった。

「三五郎は居るか？」

「居るよ。お上り」

若者は、手駿ひを出して、少し濡れた着物や足を拭いて、狭い縁先から駿次郎の居る座敷へと通って行った。

インテリ層を目標に 歌舞伎を變革か

洋畫飢饉と一石二鳥

松竹で目論む

非常時局下に急速に進展過程をたどってゐる歌舞伎を抱へ一方洋畫飢饉の現象に處してゐる松竹がこの二つを結びつけるプランをねってゐる、即ち松竹ではさきに国劇の舞台公演を挙行し、更に今回新橋演舞場に於ける吾妻ファン並に観覧者の歓迎会を催すなど一連の歌舞伎革新運動を行ひつつあるが、之は洋畫からシャット・アウトされたインテリ層が歌舞伎に向きだしたら新顧客を求めつつある現状を見越し、松竹大資本のバックに依って一層積極的なファン獲得を目論んでゐるものと観られ、今後の活用が期待される訳である、処でこの新運動の一つは松竹にとって一つの試験興行でもあるので、首脳部にも度的に記録を樹立して来たが、最近は飛行機の躍進により、その記録振りは特に目覚ましい、その後の記録はかうなつてゐる

一八九〇年＝ジョーチ・フランス・トレインス六日二時間
一九〇一年＝チャールス・フィッモリス六〇日二時間
一九〇三年＝ヘンリー・フレデリック五四日八時間二分
一九一二年＝デューン・ヘンリー・ミーアス三百日二時間一四分
一九二六年＝エドワード・ニヴァンス及びリンン・ウエルス兩氏（二部飛行機使用）二八日一四時間二六分
一九二七年＝C・B・D・リアー大陸三日二時間二一分
一九二九年＝エッベリン伯（飛行船に依る）二日七時間三四分
一九三一年＝ウイリー・ポスト及びハロルド・ゲティ兩氏八日五時間二分
一九三三年＝ウイリー・ポスト七日一八時間四九分

お父さん

三吉尾なつ子 (下)

お父さんのやうにから子のおせりをしながら勉強しないとは云はないが、お母さまが居ないことで、るり子のおせりしないやうな、わがままでは、どんなに御本を読んでも、ほんとの仰有ったお母さまの事が、こんなにおかしく、とうにおよろこばれるのかしら、と心配になって来たけど、僕はいけないな、と思ったよ、だってお父さんなんか毎日々々おせりしながら、おいさんやおばさんのお手だけして、そいで、勉強できたのに、僕なんか、ずぼんぼん、わがままなんだもん、そいでも、お父さんもお母さんも、そんなにお小言なんか仰有ったことなんか無いんだもんね、僕、わるいな、とおもったよ

だから、僕、昨日はね、学校から帰ると、すぐ復習と複習をしたんさ、そして、それがすむころになると、そろ〳〵お母さまはお夕飯のお仕度で台所がいそがしくなるだらう、だから、僕、少しはうかしかったけど「お母さん、僕、るり子と遊んでもいいよ」って申し上げたさ、すると、お母さまはびっくりしたやうなかほをなさって「まあ、僕は、ずゐぶんえらいのね、今日は、何か、きっと父さまからごほうびが出さうよ」って、とってもおよろこびになったよ、僕は、るり子のおせりをするくらゐの事が、こんなにお母さまによろこばれるのかしら、とふしぎでなくなったよ

そいで、僕、るり子に悪口みせてやったり、鞄本をしたりそれにも飽きると、夕焼け小焼けの遊戯を、散々やったりしてるんだ、そこへ、お父さまがお帰りになって「ほら、僕は、今日はかに僕いんだね、かみ様が、僕の賢いこと を、お父さんにもちゃんと知らせて下すって、ほうら、ごほうびだうだ……」とおっしゃって、僕いたのが、お膳だなしの御本と童話の御本だったのさ

僕、よく御覧さまに聴くけど、昨日みたいに、うれしかったことないよ、僕、そいで、みんな読んでしまったら、御本は、僕、ほんだうに好きだよア

月形、深水の一行 元氣で着臺

國際館で挨拶、實演

五日より國際館で喜劇のファン並に挨拶陣に突如四日元気で着臺した月形龍之助、深水藤子の一行は月形龍之助、深水藤子の一行は月形龍之助、深水藤子の一行は

臺灣日日新報
本日夕刊共二十頁
編輯兼發行人 佐々木 寅
臺北市日吉町四丁目四番地
社報新日日報社
所在地
電話 代表五八〇二番 編輯局五八〇三番 營業局五八〇四番
定價 一部六錢 一ヶ月前金四圓 三ヶ月金十圓 半年金廿圓 一ヶ年金卅圓
廣告料 特別一行十五錢 普通一行十錢 三回以上一回毎に五錢宛減ず
（日本國內及滿洲國內各地代理店）

消費節約、物價對策へ
商品の單純化を圖る
法令を以て全國的に

【東京六日發同盟】物資總動員の物資動員計畫に即應して國力の擴充運用を圖る爲には消費節約、物價對策の上から商品の單純化を法令を以て實施すべく政府當局で考慮、四日發表日本標準商品規格に從つて商品の品種に制限を加へ單純化を圖ることとして商工省當局の手で具體案を作成中であるが、これは主として原料關係の品種に限られて居り、完成品としては別に指令を以て單純化に向つて目標を定めつゝ實施を圖ることとなつた、一說又一說ガソリン、タイヤ、自轉車、ミシン、ラヂオ、ビール、煙草、マッチ、砂糖、醬油、味噌、酒類、織物類、セメント、鐵鋼、ガラス、石炭、電球、電線、ゴム製品、陶磁器、硝子製品、眼鏡の十種商品に對し單純化の實施が決定してゐるがこれは

敵空軍に大打撃
宛然無人の境を行く
陸の荒鷲の西安空襲

【北京六日發同盟】最近情報によれば、陝西方面への敵機來襲々たるものあり、殊に九月の西安○○部隊の飛行場、○○部隊の飛行場等の施設に對する敵機の來襲は頻繁を極めつゝあるが、これに對し我が○○部隊は○○機を以て○○機に對し○○回に亘る邀撃戰を展開し、敵機○○機を撃墜、○○機を撃破、我が方の損害は僅かに○○機に過ぎず、敵機は我が制空權下に全く手も足も出ない狀態にあり、我が荒鷲は宛然無人の境を行くが如き感があり、敵機は我が荒鷲の姿を見ると、爆彈を投棄して逃げ出すといふ有樣である、○○部隊の○○中尉は○○機撃墜の記錄を有し、○○部隊の○○中尉は○○機撃墜の記錄を有し、○○部隊の○○中尉は○○機撃墜の記錄を有し

移出米管理案（内容）

實施は來年
二期米から

買上は現金 移出港で

籾摺業農會等はそのまゝ活用

移出商に就ても考慮する

田端殖産局長談

台湾総督府の多角経済政策に関連する移出米管理案は、下岡殖産局長の四ケ月間に亘る視察、拓務局當局者との折衝の結果漸く根本方針につき意見一致を見たので四日午後二時より大日本製糖會社會議室に於て記者團と會見左の如く述べた

實施期は色々準備も要るので來年二期米から

移出商に就ても考慮する

田端殖産局長談

台湾総督府の多角経済政策に関連する移出米管理案は、下岡殖産局長の四ケ月間に亘る視察、拓務局當局者との折衝の結果漸く根本方針につき意見一致を見たので四日午後二時より大日本製糖會社會議室に於て記者團と會見左の如く述べた

實施期は色々準備も要るので來年二期米から

移出商に就ても考慮する

田端殖産局長談

移出米管理案は四期作に亘る為め、折衝開始以来一貫して慎重研究を重ねて来たが、今般拓務當局者と會見一致を見たので、**九月中に臺灣重要産業調査委員會を設け具體的問題につき立案することとなつた**、委員には關係省の次官、農林局長、拓務局長等の外民間から總督府評議員、民間有力者が加はることとならう、他委員會にて出來上つた具體案に基き總督府に設置の移出米管理委員會に諮問し、更に内地側關係方面の意見を聴取して最終案を決定する筈である

米の素質改善

先議

移出港で買上

買上は現金

籾摺業者代表が陳情

籾摺業者の立場を考慮

移出商に就ても考慮する

實施は來年二期米から

移出米管理案は四期作に亘る為め、折衝開始以来一貫して慎重研究を重ねて来たが、今般拓務當局者と會見一致を見たので、**九月中に臺灣重要産業調査委員會を設け具體的問題につき立案することとなつた**、委員には關係省の次官、農林局長、拓務局當局者の外民間から總督府評議員、民間有力者が加はることとならう、他委員會にて出來上つた具體案に基き總督府に設置の移出米管理委員會に諮問し、更に内地側關係方面の意見を聴取して最終案を決定する筈である

米の素質改善

先議

移出港で買上

買上は現金

籾摺業者代表が陳情

籾摺業者の立場を考慮

移出商に就ても考慮する

實施は來年二期米から

台湾総督府の多角経済政策に関連する移出米管理案は、下岡殖産局長の四ケ月間に亘る視察、拓務局當局者との折衝の結果漸く根本方針につき意見一致を見たので四日午後二時より大日本製糖會社會議室に於て記者團と會見左の如く述べた

實施期は色々準備も要るので來年二期米から

移出商に就ても考慮する

**田端殖産局長談

祝福すべき 人間誕生の神秘

驚くべき數の卵子について

醫學博士　谷口虎年

"醫學の特は一ふた児かをいといふ諺があるが、たまたまそれは出産に直面してゐる。このつまらない迷信のために新婦も家族も緊張し切つてゐる婦人が多いと思ふ。

人がこの世に生れ出づるまでに、どのやうな機能が働いてゐるかは餘り顧みられず、しかもそれほどその生命は尊いものであるかは餘り顧みられないものである

いま、醫學博士谷口虎年博士に依つて打破への科學的解説をお願ひしました

野々生物學と、醫學上の人間の目から見ても人生に實に興味深いものである。

生存競爭も決して生殖にのみ見られるものでなく、個體内、いや、生れたばかりの女の子の赤ン坊の體内でも始まる。卵巢に生れたばかりの初生兒の體内には、左右のもの併せて四十万個の卵細胞があつて、何れも將來一個人になるに充分な資格を具へてゐる。けれども間もなくこれら卵子は退化が始まり、だんだん數は減つて行きます。

× × ×

數ある學者の調査によると、十七歳の処女の左右の卵巢中の卵子の數は二万五千個の數へるに過ぎなかつたといふ。從つて二十六万五千個は消えてしまつたわけである。いま、假に女が十五歳にして排卵が始まり、四十歳で閉鎖して排卵停止とすれば月經は止んだとすれば、その間に二回の排卵があるから、この三十年の年月を乘じて、假かに二百六十個に過ぎない。

× × ×

そこで、假に一人の婦人が一生涯五回妊娠したとすれば、五十個の排卵が防がれる、左右あわせて一人の婦人から一生涯に排出される卵子は、凡そ二百個に過ぎない。殘りの三十九万九千七百個はこの二百個の卵子の犧牲になつたわけである。

× × ×

若し幸にして五個の卵子が全部

する機會を得たとしても、それが全部立派な赤ン坊として産々の声を挙げ得るものではない。或るものは母體内で、または産む場合も多い。この點から見ても一個人の出生には無限の困難と機會とが横はれてゐる。實數を擧げていへば、この世に生れ出づる者は無數の同胞（兄弟）中から光榮ある選ばれた勇士である。

この点から見ても、人の出産が如何に感謝さるべきかが想像出來る、人の命の尊さなのも道理である。

× × ×

次に際らは一人の女子から生れる子女の數はどれ位かといふと平

恐るべき 低能の遺傳

恐怖な素質は遺傳によつて増加するもので、中でも低能は極めて多數發生し、我國の人口七千万人とすれば、その二%なる百四十万人にも上ると推定されます。その原因は遺傳によるものの他に、胎兒の時または出産時、生後幼少時に受けたならゆる刺激――兩親の酒精中毒、梅毒、腦脊髄による脳膜炎、腦外傷、窒息、栄養不良等によつて起ることがあり、これらを遺傳性、又は内因性低能に對して、外因性低能といひます。

しかし、低能の大部分は内因性で、低能の遺傳の恐るべき例としては、米國某富豪の青年が低能のチンアルカリといふ青年が低能の少女と結婚して出來た子孫四八〇名中、約二割の低能、二割の精神異常者が見出されましたが、彼が戰後結婚して普通の結婚をして出來た子孫九六名は殆ど全部普人であつたといはれます。このやうに、低能の遺傳は非常に多く、片親低能の時は子供の四、五割、兩親共低能の時は七、八割が低能になります。

健康相談

結核脱出（脱肛持）の治療

（問）私は數年前から痛が感じてゐて一週間經過後痔の出血が始まり、四十歳にして脱肛となり、假かに入れた後の方は血が溜つて腫れ上つてしまつたわけである。いま、假に入れて置いても脱肛止とすれば月經も止んだとすれば、その間に二回の妊娠もやす、毎月一個宛脱肛されたとしても、この三十年の年月を乘じて、僅かに二百六十個に過ぎない。

× × ×

そこで、假に一人の婦人が一生涯五回妊娠したとすれば、五十個の排卵が防がれる、左右あわせて一人の婦人から一生涯に排出される卵子は、凡そ二百個に過ぎない。殘りの三十九万九千七百個はこの二百個の卵子の犧牲になつたわけである。

× × ×

若し幸にして五個の卵子が全部

海底の争闘

（下）ある潜水夫の話

海底らしいのはなんといつても鮫です。南洋で鮫の一番多いのは、バラオから北西七十浬の北西礁といふ暗礁の多い所で、ここは百尋から四十尋位の所で、ここは眠れぬ鮫です。一度足を踏み外したら最後、もう何處まで落ちてゆくかわからないのです。私はここで餌をまいて鮫を集め、鮫の數が多くなつたところを機會にしこの淺い所に錨を下して止つてゐる船から錨をつけて、船のやうなものを海底に降し、その上に乗つて鮫の觀察するところを撮すのです。鮫は相手が大きいと見ると、先づ相手の大きさを測べる。そしていよ〳〵向ふ

といふ時に食べられるかどうかを見るために、體當りをして來て、相手の體が柔かいといふことを知るといよ〳〵飛びかかつて來る。だから、この時は、飛びかかつて來ようとする鮫にちつと眼を据ゑて、睨んでゐるのである。鮫が右へ行かれれば右を、左へゆけば左を睨んで、片時も鮫から眼を離してはならない。

こんな時眼を離して逃げようものなら、もうおしまひである。鮫は一時にどつと押し寄せて來て、終ひうちに人間の體は鮫の餌じきとなつてしまふのです。私はこの時ほど心臓の強いことを感謝したことはありません。

× × ×

リーフ（飛瀬）の間から、もくもくと湧き上つて來た黒い物體は、鮫族の二匹の下へ來た時には、たしかです。みると、それが見た事もない巨鮫で、體長は十尺位もあつたでせう。

私は鮫のこのたちひの恐ろしさを知りませんでした。餌を捨て置けばくれるといふ安心から、餌を捨てゝ置いたのです。

× × ×

私は全然この